



地域で最も身近なスポーツを楽しむ場として全国に拡大中

## 総合型スポーツクラブとボランティア

### 【 総合型スポーツクラブ誕生の流れ 】

少子高齢化の大きな社会変化の中、健康志向もあり、スポーツは学校・企業から市民自らのものとなる流れが止まりません。バブル崩壊の際に実業団のスポーツクラブが数多く廃部や休部に追い込まれました。その最も象徴的なシーンは1999年元日に天皇杯の優勝を決めて実質的に消滅したJリーグの横浜フリューゲルスでした。そして今、昨年後半からの世界規模での景気低迷により、伝統ある企業スポーツチームの廃部が再び相次いでいます。全国各地に住む人々にとって、「見る」ためのスポーツも「する」ためのスポーツも今後は自らの意思で選択し、その継続的な環境を「支える」こともより大切になっているのです。そんな変化の中で、2000年に策定された「スポーツ振興基本計画」では2010年までに、多種目・多世代の人々が定期的・継続的にニーズに合わせたスポーツ活動を楽しむことができ、地域住民が主体的に運営する「総合型スポーツクラブ」を全国の各市町村に最低ひとつは育成するとしました。

プロスポーツがスポンサーや観客の獲得をめざすため、どうしても大都市圏に集中する傾向が強いのにに対し、総合型スポーツクラブは全国各地に設立され数も多く、より身近なスポーツを楽しめ地域の人が関わることができる場といえます。一方でその創設から運営・発展にはそこに住む人々のサポートが不可欠といえます。その実情を「みやぎ広域スポーツセンター」の小松さんにお聞きしました。

みやぎスポーツネットワーク・ホームページによる「総合型スポーツクラブ」

[http://www.mspf.jp/sponet/index.php?action=main\\_sportsclub](http://www.mspf.jp/sponet/index.php?action=main_sportsclub)

### 【 クラブ立ち上げと運営 】

宮城県では現在まで(2009年2月8日段階)15市町村に27の総合型スポーツクラブが設立されていますが、その母体となっているのはサッカーの地域団体が中心となっているのが六つ、残りは全く新たに組織が立ち上げられており、その力となっているのがボランティア的な活動といえます。そこに住む人々がスポーツへの思いを語り合う中から「自分たちが楽しむことを目的として」総合型のスポーツクラブをめざす(子供会・子供たちの父兄・自治会など)例が多いようです。とりわけ立ち上げの初期の段階ではボランティア的な活動となっています。損得勘定よりは自分たちの地域が暮らしやすいように、自分たちの子供たちの生活環境が良くなるように、という思いはプロやアマチュアスポーツを支えるボランティアの思いに極めて近いのではないのでしょうか。

また、立ち上げたあとのクラブ運営においても、中心になった人がボランティア的に関わる傾向が強いのが実情ですが、多くのクラブでは次の世代の人たちの仕事場として雇用の確保を考え始めていて、まずは人材育成に着手しています。もちろん、クラブの理想としては指導者や運営する事務局もプロ(職業とする人)が望ましいのですが、そのためにはスポーツそのものの地位がもっと見直される必要があると感じています。何故職業とすべき人が必要かという、クラブの運営は経営の視点や利用者のための指導レベルが重要ですが、専従であれば利用者が希望する必要なタイミングで対応ができますが、ボランティアではそうした対応が困難となるからです。ただ、現実はどうかという宮城県内では事務局に有給のクラブMgrがいるクラブが27クラブ中10クラブとなっています。また、有給指導者がいるのは2クラブ、多くは謝金を支払い指導を依頼している状態で、指導者もボランティア的に関わっている方が多いのが実情です。

### 【 具体的な活動と今後 】

こうした総合型のスポーツクラブと地域の人々のボランティア活動については、きちんと制度化されている例はあまりありません。むしろ、イベント開催時の手伝いとして教室の開催前の受付などをしていただいたり、イベント時の商品の提供や炊き出しをしていただくこともあれば、地域向けや会員向けの企画を作るボランティアとして協力していただいたり、さきほどの指導者やスポーツ活動時の送迎など、本当に小さな雑用的なサポートで助けられているところが大半です。待遇という面でもお弁当程度というのが一般的だと思います。

ひとつの事例として利府スポーツクラブがあります。この組織の理事は自分からやってみたいと手をあげた人々ばかりです。発展はこれからですが、ここで地元にある商店がクラブの会員証で商品の代金を割り引くなどの協力をボランティア的にやってくれています。実はこうした例は近隣の多賀城・七ヶ浜でもやっており、形こそ違い互いにメリットを生み出すひとつのシステムではないでしょうか。

利府スポーツクラブ概要

[http://www.mspf.jp/sponet/index.php?action=main\\_sportsteam\\_detail&stid=30](http://www.mspf.jp/sponet/index.php?action=main_sportsteam_detail&stid=30)



今後ということでは、ドイツでは自分自身は競技が出来なくなったという方々が、クラブの施設をメンテナンスなどでサポートしていました。これという画一的なものの強制的なものではなく、そうした自発的で自然なボラ活動でクラブを通じて地域の楽しさを作ることが、自分たちのクラブという意識につながっていくのではないのでしょうか。もちろん、長期的にみればクラブ活動をサポートするボランティアの組織化・制度化は継続性という視点からも大切になるでしょう。しかし、会員しか関われないという制約はあまりありませんので、地域からの人材に関する情報(自分たちはこんなことが出来る)は大いに歓迎されると思います。誰でもかかわれる敷居の低さは総合型スポーツクラブの特色となっているのです。

総合型スポーツクラブの2010年以降に向けての課題の中で、既に設立されたクラブにとっては種目の壁・組織の壁による悩みと、ともするとどうしてもお金の問題が注目されますが、時代にあわせいかにかに的確に地域によって同じではない利用者のニーズをつかんで対応していけるかが大切だと思います。従来私たちの国は好きなスポーツを継続的に続けられる環境ができていませんでした。それを変えるという意味で総合型スポーツクラブの役割は大きいものがあります。まだ2010年以降は話し合いの段階です。クラブは全国で6～7割の市町村に設立され、今年度は設立後の効果を調査する予定もありますがおそらく重要なものとして今後も継続的な施策がだされるものと思っています。

< 2月8日 県サッカー場にて / みやぎ広域スポーツセンター小松 史嗣氏取材 >

このページはさまざまなスポーツボランティアの活動情報を掲載しています。【ラグビー】

ラグビーとボランティア ～ 宮城 / 釜石

【はじめに】

宮城県ラグビーフットボール協会が初めて地域から一般ボランティアを募集し、大学ラグビーの運営を行ったのは2004年6月のことでした。従来ラグビー協会は高校生・大学生のアルバイトによってゲーム運営をしていました。その手法に疑問を感じた協会のスタッフが理事会に、地域からボランティアを募集し運営することを提案、承認をうけたことが始まりとなったのです。試験的に実施した取組み、そこでスタッフがみたのは「お客様本位の対応」「エコ活動への取組み」など、施設のこと熟知しお客様の目線での対応するボランティアであり、そこには見習うことが多くありました。当時協会と連携してボランティア運営に参加したSV2004の2回目の活動となる10月の報告には次のように書かれています。

2004年10月17(日) 仙台スタジアム 参加 18名 9:00～16:30

6月の大学ラグビーに続き今年二度目のラグビーボランティアに参加しました。前回は大学ラグビーであったのに対し、今回はトップリーグ(三洋電機ワイルドナイツVSヤマハ発動機)のゲームであったこと、事前の打ち合わせ段階から参加させていただき、6月の反省点について改善できたことが大きなポイントでした。

【ボランティアの業務】



ゲートもぎりとチラシ配布



プログラム販売・アンケート回収



障害者案内



三洋グッズ販売



チケット販売



分別と清掃

【釜石シーウェイブスRFCの取組み】 .....

実は、究極の市民がボランティアとして参加し運営されているチームが東北にあります。名前は「釜石シーウェイブスRFC」、その前身は1978年から1984年まで日本選手権7連覇を達成したラグビー界の名門「新日鉄釜石ラグビー部」でした。しかし、主力選手の引退や親企業の経営の見直しから2001年に企業のラグビー部としての幕を下ろし、かわって地域密着型のスポーツクラブとして設立されたのが「釜石シーウェイブスRFC」でした。設立時のミッションにはラグビーの強化振興に加えて市民の協力（ボランティア）で地域活性化すると謳っており、クラブマネジメントの根底にボランティアが据えられていることが大きな特色となっています。

釜石シーウェイブスRFC <http://www.kamaishi-seawaves.com/club/pdf/2006/3.pdf>

シーウェイブスのボランティアの形は独特であり、ひとつには「会員ボランティア」として運営をサポートするメンバーがあり、現在は理事25名（内常任理事13名）、事務局45名となっています。

釜石シーウェイブスRFC組織図 <http://www.kamaishi-seawave.com/club/pdf/2008/5.pdf>

次にスタイペンドという特別な技能を持った方に謝金を払い協力ももらっておりその数は現在4名といます。そしてエキストラ、広汎な運営を支えてくれる方々であり、行政の職員や高校ラグビー部、青年会議所や商工会議所青年部、大人のタグラグビーのチーム関係者や地元の商店、スクールの父兄、クラブチームの選手まで実に多様な方々が協力してくれているそうです。

ボランティアの活動は、主に会員によるクラブ経営会議や事業、スタイペンドによる広報刊行物、メディア制作、エキストラによるイベント開催時の受付をはじめとするものにわかれていて、一時は規律遵守が優先、交通費や賄賃金を支払っていたこともあり、メンバーが疲弊し新しいメンバーも入ってこない時期もあったそうです。そこで、一切の規定は設けず、本人の意志と志向を尊重して役割を分担し、ペナルティなどを廃止するとともに賄賃金も廃止し、メンバーリストを作るところからはじめ時間が経過していくと、集団の意識も芽生えて自律自主的に取り組んでくれるようになって来たといいます。ビジョンをわかりやすくしたり、中長期計画を発表したり、コミュニティサイトを活性化したり、とオープンな組織にしていって、マンネリ化を防止するために常に新しいことに取り組んできたこと、そして、何をするにしても楽しく取り組む姿勢を保ち、あそこは楽しそうだと、思ってもらえるようなボランティア組織を原点としているといいます。

<釜石シーウェイブスRFC 増田久士事務局長取材>

【まとめ】 .....

2009年、今年ラグビーのワールドカップの開催地が決定します。仮に日本での開催となれば仙台も開催地の候補のひとつになることも想定されます。その場合、運営は協会だけでやるのではなく、さまざまな面でボランティアの力も重要になります。また、トップリーグをはじめ毎年仙台で開催される有料試合の運営においても、施設に対する知識の豊富さや接客などのノウハウをもつボランティアとの関係作りが大切と協会の方はいいます。ともにより良い運営方法を構築していく仙台方式を全国のラグビー関係者に広められればと願っています。

<宮城県ラグビー協会 富士原 義徳氏取材>

左 / JR 柏駅前  
右 / サッカー場  
への道

2008年段階で全国に33あるJクラブ、その大半で活動しているボランティアの中でどこよりも元気で、活発な交流活動を行っているのが「柏レイソルボランティア」というのは衆目の一致するところでしょう。けれど一見順調なレイソルも1995年からのシーズンの中で2006年にはJ2での戦いを経験しています。歴史あるクラブにどんな伝統と変化が息づいているのか、それが知りたくて2008年10月25日の「柏レイソルと横浜Fマリノス」のゲームにボランティアとして参加してきました。

レイソルのホームページは黒を背景としてチームカラーの黄色が目立つきれいなものですが、その右下に「レイソルボランティア」の青いバナーがあります。それをみると、レイソルのボランティアは「柏レイソル後援会」の「ボランティア部会」として活動しており、活動に参加する場合は保険料などのために年間3,000円の会費を納入することとなっています。運営はこのボランティア部会の部長が中心となっており、今回の体験活動でもクラブスタッフが表にできることはほとんどありませんでした。それだけ過去の実績に対し信頼され任せられているということはボランティア組織の自立という点からも注目されるものです。

#### 【 ボランティア活動報告 】

この日、ゲームの開始時間は15時でした。そのためボランティアは3時間前の12時にホームの日立柏サッカー場に隣接する日立の体育館に集合し、さっそくミーティングが行われました。当日から変更された動線などの説明は全て部長や副部長が担当しています。その後すぐに配置先に移動12時半には開門、私はSS席で座席案内を担当しました。この配置先は全て後援会のボランティア部会で決めており、おおむね同じ配置先で5回以上活動した方がチーフ（一般的なリーダーのポジション）になるのだそうですが、誰がチーフになるかは当日に決まるとのことでした。つまり多くの方がリーダー経験をしているので、リーダーの役割を心がけているのではないのでしょうか？座席案内のほかボランティアの主な活動は「サポートキッズ・フェアプレイペアラールの誘導、ボールボーイ、スタンプラリーなど」であり、活動の多くがピッチ内のため自然に「自分が表舞台に立っている」と実感できるといいます。ハーフタイム時にボランティアがピッチで砂をまいている姿には本当におどろかされました。同時にサッカー専用のスタジアムはスタンドとピッチの距離が近く、応援の声もよく響き一体感がありました。特にKO前に「柏バカー代」の応援歌が流れたときはスタジアムだけが昭和に戻ったようで懐かしさを感じたのは私だけだったのでしょうか？尚、ボランティア活動時のユニフォームは青色のTシャツとジャンパー、白い帽子ですが、部長などは制服として紺色のスーツを着用していました。やがてゲームの終了が近づくと私たちは観客席の最前列に移動し、観客が身を乗り出したりしないように見守ります。そしてゲームが終わるとスタンドのごみを分別しながら回収しその後終了ミーティングに参加し解散となりました。ボランティアのホームページには「お客様の笑顔はボランティアのこころ」というメッセージがかかげられています。またさまざまな交流の際に話した柏のボランティアに共通しているのは「ボランティアをさせてもらっている」「楽しくなければボランティアではない」という意識です。その意味では何かをしてもらうのではなく、自分たちが何ができるかを大切にしている組織だと感じました。

待遇面では交通費は支給されず当日はお弁当とお茶をいただきました。通常のゲームサポートのほかのボランティアのイベントとしては、全国各地に研修と交流を目的としたツアーを企画し実施しているほか、バーベキュー大会や忘年会などがあり、特に忘年会には選手も参加し一緒に楽しむこともあるそうです。また、月例で会議を開催、そこには後援会・クラブも参加し連携をはかっているほか、時には市長が参加することもあるのだと聞きました。このあたりのまとまりの良さは参考にしたいところです。



左 / ミーティング

右 / 昼食の様子

【 次に向かって 】

2009年の元旦、レイソルの姿は国立にありました。その天皇杯では4回戦から全てのゲームを一点差で勝ち進みガンバ大阪との決勝戦に臨みましたが、延長後半このゲームだけはその一点が相手チームに入ったのです。もちろん黄色に染まった柏サポーターの中に入り多くの柏ボランティアも一緒に応援したそうです。既に2009年はコンサドーレ札幌の監督として移ることが決まっている石崎監督に対し、選手やサポーターは「石崎さん、元旦と一緒に泣いてもらえませんか？」をスローガンとして応援してきたといいます。結果は準優勝でしたが、はつらつとした選手たちのプレー、最後まで声の限りのサポーターの応援はきっと2009年のシーズンにつながるものであり、レイソルの歴史に新しいページを加えたはずです。

改めてボランティアのホームページを見るとさまざまな質問を予測し実に丁寧に作られています。特に「先輩ボランティアからの一言」や「メディアからの取材」などはぜひ他のボランティアのホームページにも欲しいコンテンツですし、まずは「体験ボランティア」をなど気軽に参加できる仕組みもあります。しかし、組織が生まれて14年目をむかえピーク時には180名を越えたボランティアの数が、130名ほどに減少し次世代の若いメンバーの参加が少ないとききました。さまざまな取り組みをみせる柏ボラですからきっとこうした課題も近い将来乗り越えるに違いありません。そんな新しい仲間とともに全国に出かけ、さまざまな知恵と工夫をさりげなく笑顔でアドバイスしてくれる日を楽しみにしたいところです。

活動時にお世話になった皆様、ありがとうございました。

## スポーツボランティアの楽しさ ~ 活動のエネルギー(1) 不定期で掲載予定 **ボランティアコラム**

### (1) 応援する気持ち~支える喜びと楽しさ

スポーツのボランティア活動を長く続けていると、多くの人と出会いそして話しをします。それは同じボランティア仲間のことであれば、行政やメディア・卒論を書いている学生もいますし、スポーツについて研究している大学関係者も増えています。そこで必ず質問されるのは、「何故この活動をやっているのですか。」というものです。ほとんど無償で多くの時間を費やしスポーツのイベントを支えること、その理由を完全に理解していただくのは正直難しいことです。何故ならベースにあるのは「楽しい」ということですが、活動している中でその「楽しさ」を感じる対象が刻々と変化しました人によって違うのですから。

#### < 「勝利が報酬」の裏にあるもの >

各地のボランティア組織の方々と話していて、チームの成績が落ちたら参加するボランティアが減ってしまった。という声を聞くことがあります。これは観客数も同じですが、チームを応援したいから活動に参加する、活動の一番の報酬はチームの勝利という人も多いのも現実です。

2008年3月30日(日) この日宮城県塩釜市の体育館ではプロバスケットボールbjリーグの仙台89ERSと新潟アルビレックスの試合が行われていました。新潟は東カンファレンスの2位を目指し、一方の仙台はこのゲームで勝てば東カンファレンスの1位を決める大事な試合で、まさに一進一退の内容でした。最終の第4クォーター残り10秒、仙台は78-79で一点のビハインド、誰もがわずかな奇跡を信じて両手を合わせ最期となるはずの仙台の攻撃を見守りました。そして、残り2秒、シュートが決まり逆転に成功するのです。その残り時間のなんと長く感じられたことが、新潟のシュートがリングにはじかれた瞬間、会場の大半の人が立ち上がり、ある人は手を上げ、ある人は隣の人と抱き合い、ある人は仲間と握手を交わしていました。そこではボランティアも、観客もチームの関係者もひとつでした。もちろん、このような劇的な瞬間に誰もが立ち会えるというものではありません。けれど、時として訪れるこのドラマのような瞬間のために、長く時として苦しい活動している、そんな気もするのです。ボランティアの控室では、良くこんな会話が聞かれます。「私がボランティアに参加すると必ず勝つんだよね」「そうそう、私だって一試合しか負けてないのよ」、もちろん黙って勝った試合数と負けた試合数を数えている人もいるでしょうが、ボランティアの願いはやはりホームチームの勝利なのでしょう。それは視点を変えれば「チームが強くなるために応援する」「チームがそこにあり続けるためにサポートする」ということにも間違いなくつながっているはずだと思うのです。

< 文責 K.I >

# ボランティアとコミュニケーション

< 調査の目的 >

さまざまな年代、イベントやゲームごとに異なる人々が参加するスポーツのボランティア活動の中で、必要な情報をどのようにして共有するかは長い間大きな課題となってきました。そして近年、ネット環境の進歩が急速に進んだことでそのコミュニケーションの方法にも変化がおきつつあります。そこで、全国で活発なボランティア活動をしている皆様に「広報誌・ブログ・メーリングリスト」を中心に、どのように活用しているかを質問しました。

Q ボランティアの広報誌・ブログ・メーリングリストはありますか。あれば誰が作成しサイクルは？

地域	項目	広報誌	ポラブログ	ポラML	情報手段	意見
千葉	有無	有る	作る予定	有る/出席連絡のみ	広報誌	年齢層が広い。ツールの使いこなしに差が生じるので、それを埋めるのがひとつのポイント
	作成者	ボランティア	運営組織	運営組織		
	発行サイクル	ほぼ季刊	毎月	ゲーム時		
広島	有無	なし	なし	なし	郵便	つながりを深めるため何か情報交換できる手段を持ちたいと考えています
	作成者				電話	
	発行サイクル				メール	
茨城	有無	有る	有る	有る	広報誌	
	作成者	ボランティア	ボランティア	ボランティア	メーリングリスト	
	発行サイクル	隔月など	不定期	不定期	ミーティング	
新潟	有無	なし	なし	有る	メーリングリスト	
	作成者			運営組織		
	発行サイクル			ゲーム時		
東京	有無	有る	なし	有る	広報誌	今後、ボランティア情報に関するホームページの立ち上げを予定しています
	作成者	運営組織		運営組織	メーリングリスト	
	発行サイクル	ほぼ季刊		不定期		
宮城	有無	なし	なし	有る	メーリングリスト	
	作成者			運営組織		
	発行サイクル			ゲーム時		
山梨	有無	有る	なし	なし	メール	インターネットを使えない方も多いので、複数の情報手段を用意するのが専任ではないため時間的に厳しい
	作成者	ボランティア				
	発行サイクル	不定期				
福島	有無	有る	有る	なし	メール	メーリングリストは検討の余地がありますね
	作成者	運営組織	運営組織			
	発行サイクル	季刊(年4回)	不定期			
宮城	有無	有る	有る	有る	メール	情報の流れが一方通行になりやすいため、今後工夫が必要です
	作成者	運営組織	運営組織	運営組織	郵便	
	発行サイクル	月次	日更新	週次	ミーティング	
岐阜	有無	なし	有る	有る	メーリングリスト	他の地域の意見などはとても参考になります
	作成者		ボランティア	運営組織		
	発行サイクル		ゲーム時	ゲーム時・イベント時		
大分	有無	有る	なし	なし	広報誌	
	作成者	ボランティア				
	発行サイクル	ほぼ季刊				

サッカー

バスケット

総合(多項目)

回答のあった11団体の中で、ボランティア向けの広報誌があるとした団体が、7つにのぼり、その多くがボランティア自らの手で作られていました。発行はほぼ季刊となっていますが大きなコミュニケーション手段となっています。とりわけ積極的に発行している団体にお願ひし、広報誌を拝見しましたがそれぞれ工夫があり記録性も高いことが注目されました。

茨城 / 広報誌の特色・・カラー4P立てで、ボランティアの活動中の写真が多く、報告的な内容から実際に活動しているボランティアの方々から取材した内容も豊富で、年間の優秀ボランティア表彰などモチベーションアップにつながる記事が豊富でした。

大分 / 広報誌の特色・・コピーで頂戴しましたので実際はカラーかもしれませんが、8Pだてでサポートしているチームの情報や、ボランティア紹介のページ、職員の紹介、クイズにお知らせなど茨城同様、ボランティアの写真や声をより多く掲載しています。

メーリングリストも7つの団体で活用していました。MLの形はとっていない団体でも主な情報手段としてメールと回答しているところが3団体あり、多くの活動メンバーに一度に情報を伝える意味で、また、効率や経費の面で積極的に使っていることがわかりました。一方でブログについては継続性や担当をどうするかなど、まだコミュニケーションの手段としては確立していないようです。課題としては、ネット環境にない方もいることで複数のツールを使用しなければならず、連絡や情報を発信する人にとって大きな負担になっているという意見もありました。



# SV2004について

## 【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

## 役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います  
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします  
思いをともにする人々とのネットワークを構築します  
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます  
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします  
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

## 活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど  
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数  
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など  
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など  
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催  
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員  
・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

## 【入会方法】

2009年度新規会員募集開始

正会員 … 年会費3,000円 ・ 学生は1,500円 (年度は4月～翌年3月となります)

準会員 … 年会費500円 サポート会員 … 年会費2,000円

お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)

または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)

申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004

レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)

メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469

申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

多くのチームでボランティアを募集中です

サッカーJ1リーグボランティア < 各チーム及び施設の公式ホームページより >

- 【モンテディオ山形】 ボランティアページ <http://www.montedio.or.jp/mvs.htm>
- 【鹿島アントラーズ】 ボランティアページ [http://www.so-net.ne.jp/antlers/news/detail/20090108\\_13\\_1807.html](http://www.so-net.ne.jp/antlers/news/detail/20090108_13_1807.html)
- 【浦和レッズ】 後援会スチュワードページ <http://www.reds-ss.com/steward/index.html>
- 【大宮アルディージャ】 サポートスタッフページ <http://www.ardija.co.jp/fanzone/staff/index.html>
- 【ジェフユナイテッド千葉】 [http://www.so-net.ne.jp/JEFUNITED/tools/cgi-bin/view\\_news.cgi?action=view&nid=3448](http://www.so-net.ne.jp/JEFUNITED/tools/cgi-bin/view_news.cgi?action=view&nid=3448)
- 【柏レイソル】 後援会ボランティアページ [http://park18.wakwak.com/reysol-kouenkai/reysol\\_bolunteer.html](http://park18.wakwak.com/reysol-kouenkai/reysol_bolunteer.html)
- 【FC東京】 ボランティアページ <http://www.fctokyo.gr.jp/>
- 【川崎フロンターレ】 ボランティアページ <http://www.frontale.co.jp/volunteer/index.html>
- 【横浜F・マリノス】 日産スタジアムボランティアページ <http://www.nissan-stadium.jp/volunteer/>
- 【アルビレックス新潟】 ボランティアページ <http://www.albirex.co.jp/contents/support/volunteer.php>
- 【清水エスパルス】 パルちゃんクラブページ [http://www.s-pulse.co.jp/club/pul\\_club.html](http://www.s-pulse.co.jp/club/pul_club.html)
- 【ジュビロ磐田】 磐田スポーツアシストクラブページ <http://hometown-iwata.seesaa.net/article/34951416.html>
- 【名古屋グランパス】 ホームページ上でページを見つけられませんでした。
- 【京都サンガF.C.】 ボランティアページ <http://www.sanga-fc.jp/club/volunteer/>
- 【ガンバ大阪】 ボランティアページ <http://www.gamba-osaka.net/fanclub/grassa.html>
- 【ヴィッセル神戸】 神戸ウイングスタジアムボランティアページ [http://www.vissel-kobe.co.jp/whatsnew/wn\\_92.html](http://www.vissel-kobe.co.jp/whatsnew/wn_92.html)
- 【サンフレッチェ広島】 スポーツイベントボランティアページ <http://www.sports-or.city.hiroshima.jp/attend/index.html#2>
- 【大分トリニータ】 ボランティアページ <http://www.oita-trinita.co.jp/information.php?mode=detail&id=2852>

(注意) 内容は09年02月10日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略 >

小松 史嗣	阿部 稲雄	増田 久士	富士原 義徳	浅見 圭一
宮明 透	山本 達也	斎藤 道子	小沢 三紀夫	但野 秀信
和田 邦彦	橋本 均	亀田 武志	榎本 建志	渡辺 英樹

**スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場としてSVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

## 編集後記

SV2004のホームページを注意深くご覧になっている方であれば、既にお気づきかもしれませんが、この2月号で丁度累計が12号、つまり第一号発行から一年が経過しました。今回もそうですが、この間に実にたくさんの皆さんに情報をいただき、直接お会いしいろいろお話しをお聞きすることができました。その全てを、あるいはその熱い思いを未熟ゆえにこのSVニュースに全て掲載することが出来なかったのはとても残念ですが、これまであまり知られることの出来なかったスポーツのボランティア活動の一端を、こうしたネット環境を活用して伝えることができたこととすれば、本当にうれしいことです。

この一年、決して短くはない時間ですがスポーツ、そしてボランティアを取り巻く環境は大きく変わりつつあります。今回取り上げた「総合型スポーツクラブ」は地域の人々により近い存在として、全国に急速に増加していますし、地域密着を標榜するスポーツも景気後退による企業のスポーツ離れなどを背景として、サッカーからバスケット、野球の独立リーグから、今後は更に多くのスポーツへと広がる動きをみせています。「地域」と密着する取組みの中で、運営する側が決まって採用しているのが「ボランティア制度」のようですが、現実には過酷な活動環境や、活動のマナー化などを嫌って楽しかったはずのボランティア活動を止めていく人も多いのが実情です。種目の枠をこえて良い経験や情報を共有し、活かしていければ今ある課題を少しでも改善できるのでは、2年目のSVニュースもそんな希望をもって作って生きたいと思います。今後とも皆様のご協力、心からお願いいたします。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

情報提供先 [izumita@dm.mbn.or.jp](mailto:izumita@dm.mbn.or.jp)